

会 議 録

会議の名称	令和 8 年度 第 1 回 豊中市市民公益活動推進委員会 地域自治推進部会		
開催日時	令和 8 年（2026 年）6 月 25 日（木）16 時 30 分～17 時 30 分		
開催場所	市役所第二庁舎 4 階第一会議室	公開の可否	☒ 可・ ☐ 不可・ ☐ 一部不可
事務局	市民協働部 コミュニティ政策課・地域連携課/市民公益活動支援センター	傍聴者数	0 人
公開しなかった理由			
出席者	委員	関部会長、馬着委員、山本委員、河本委員	
	事務局	安井次長 （コミュニティ政策課）末次課長補佐、開発係長、村上主査 （地域連携課）橋本課長、岩下主幹、原園主幹、山岸主幹、松本主幹	
	関係者	（市民公益活動支援センター）上村センター長	
議題	1. コミュニティ基本方針の見直しに向けた整理について 2. その他		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

令和 8 年度（2026 年度）第 1 回
豊中市市民公益活動推進委員会 地域自治推進部会 議事概要

日 時 令和 8 年（2026 年）6 月 25 日（木）午後 4 時 30 分～午後 5 時 30 分
場 所 豊中市役所第二庁舎 4 階第一会議室
出席委員 関、馬着、山本、河本（敬称略）

議 事 概 要

1. 開会

開会宣言、会議成立の確認、本日の案件及び資料等の確認。

2. 議事内容

■ 案件 1 コミュニティ基本方針の見直しに向けた整理について【審議】

資料「新たなコミュニティビジョンの設定に向けた現状と論点」をもとに事務局より説明

○参加動機の変革（「義務」から「共感・選択」へ）について

（部会長）

参加しなければならない義務感での関わりから、人と人との関係性からできるコミュニティへの転換について、地域やまちでの具体的な事例があれば、またこんなことがあれば行きやすい、つい行ってしまうような場所などがあれば教えてほしいです。

（委員）

私は敷居が高く感じます。誰かが声をかけてくれたら行きやすいですが、自分から行こうとは感じにくかったです。その場所に行ったら何をすることが分かると、想像できることで難しいと感じてしまうので、イメージできない方が逆に行きやすいのかもしれないです。学生による落語会のポスターを見て、催しがあることに気づいた経験はあります。

（委員）

これは自治会の活性化ということですか。そうでなければどの程度の範囲でしょうか。

（部会長）

もっと広いコミュニティのことですね。

（委員）

広い範囲ということであれば、知り合いを増やさないと難しいのではと思います。

（事務局）

コミュニティの考え方が変わってきていると感じています。もともとあった地縁の団体を活性化

させることも大切ですが、そうでない関係者も出てきている現状です。実際のコミュニティもやりたいことベースで新しいコミュニティが出来上がってきている事例もあり、多様なコミュニティも認めていきたいという趣旨なので、こういうイベントに参加してみたい等のご意見があれば参考にさせていただきたいです。

（委員）

盆ダンスも行ってみたら楽しいかもしれないですね。敷居を下げるきっかけがあれば、イメージが変わるかもしれないと感じました。先日天竺川の清掃ボランティアのチラシを見て、地域で活動をされている方の存在に驚かされました。まちの清掃とか、気軽な声かけがあれば参加してくれる人が増えるかもしれないですね。

（委員）

転勤族や集合住宅が多いと、自治会加入率が20%程度の地域もあります。自治会加入率の低さでどんな影響があるかと考えたときに、地域の大会議では「情報が入ってこない」という悲痛な声が多くありました。防災の面でも心配の声が多く、人と人とのつながりが、防災に関しても原動力と感じます。共助の精神から、「ご近所」ベースでできているかということ、近くに誰が住んでいるかわからない現状では弱いと感じます。

（部会長）

防災においてはどんな工夫をされていますか。

（委員）

ゲーム感覚で楽しめるようにしたり、マチカネポイントをあげるなどイベントの工夫をしています。

（委員）

消火器を使った消火訓練などは子供でも楽しめますね。

○点在する「関心グループ」と地域の連携について

（事務局）

新しいテーマ型の団体もたくさん出てきており、中にはビジネスにつながる例もあります。○○地域のひとだけでのコミュニティということではなく、地縁の人と緩やかにつながればよりコミュニティが活性化するのではないかと事務局としては考えています。

（部会長）

一般的には新しくできたテーマ型の団体と、元から地域にある地縁団体とはあまり仲良くないと言われていますが、うまく融合させる方法やアイデアはありますか。

(委員)

新しい人たちの声も届きやすい地域だと感じています。

(委員)

隣近所の方が知り合いになった方がいいので、最初のきっかけは義務的な集まりでもよいと思います。知り合いになってから、何かやりたい、と派生していったものの例が祭りなどで、そこにみんなが参加できるようにすればいいと思います。

今であれば、地域で子育てできないかと考えます。子ども食堂や朝 7 時からの学校開門を地域の人に手伝ってもらうなどで、希薄になっている近所付き合いをまずは共通の目的で集まってそれから何をしていくかを考えるべきですが、個別の問題のようにも思います。

(部会長)

地域の運動会の担い手がいなくてなくなる、などのように、地域のニーズをとりまとめる場が減っていき、あきらめてしまう例もあります。

(委員)

例えばラジオ体操をしている人はとても多いです。地域の人に共通の趣味などはあると思うので、それをうまく巻き込めたらと思います。

(委員)

朝ラジオ体操をしている人の数は半端ないです。何かに参加したいという意識を持っている人はとても多いように思います。毎日何かをしなければならぬと義務になって続きませんが、自分自身も例えば好きな清掃の活動であれば興味が持てます。マチカネポイントもきっかけづくりになると思います。

(委員)

犬をきっかけに知り合いになることがあります。ペットを共通としたコミュニティができていて、犬をきっかけに、自分の話をしています。散歩の時間帯も同じでしゃべりやすいです。

(委員)

地域の子どもの半分は学童に行っていると知って驚きました。ご夫婦で仕事をされていたりすると地域の活動にも参加できない、情報も入ってこないという層が多いです。そういった人をうまく巻き込めないかと考えますが、参加できない層が一定います。

(委員)

地域で学童を運営できたらよいですね。困っている人だけを助けるのではなく、育児を地域で手助けする。そこでコミュニティも生まれそうだなと思います。

（部会長）

地域で学童を運営している例を聞いたことがあります。人が集まる場を地域で支えていくという発想もあり得ます。

○組織・運営の「スリム化」と「デジタル化」

（委員）

若い人は紙ベースをほとんど見ないです。地域の掲示板もありますが見ないので、デジタル化はこれからキーワードになってきて、働いている人たちへの情報伝達手段として重要だと思います。

一方で使えない人もいるので、複合型である必要があると思います。

（委員）

プロジェクト型の方が長続きするのではないかと思います。こんなことやるから、やりたい人集まって、とフラットに募ることで、緩やかさが出るし、取捨選択の幅も出ると思います。

（委員）

「社会人野球をやっている、いつでもいいから入ってね」など地域の情報を見ることもあるので、地域でやっていることがもっと見えるといいと思います。

（委員）

資料に紹介されているアプリとは、地域で使えるアプリですか。

（事務局）

その地域にアプリを作成できる人がいて、地域の方に情報を流している状況です。

（委員）

開発者に負担がかかることも心配されますね。

（事務局）

アプリでなくてもいいが、LINEの登録ができない人もいます。続けていくためにも新しい技術も必要かと思っています。

（部会長）

デジタルにする前の「スリムにしよう」という発想も大事です。地域の印刷物作る労力を違うところに振り分ける、など削れるものとしてどんなものがありますか。

（委員）

できないからやめよう、と削りすぎていった結果としての弊害もあります。

（委員）

情報が過多になっている場合もあると思います。

（部会長）

情報を整理することも必要ですね。

（委員）

アプリなどを双方向にした場合は個人情報漏洩のリスクへの対応の問題が出てきます。

（委員）

地域でも足し算の話はあったが、引き算の話はあまり出てこなかったです。

○補助金に頼らない「自立型財源」の育成

（委員）

違和感があります。趣旨が分かりません。

（部会長）

財政的な自立という意味合いかと思います。

（事務局）

関わりのプロジェクト型においては濃淡があり、例えばお金を集める＝共感を集めていく方法も一つだと感じています。自主財源も持たれていると、補助金を充てられない活動もあります。企業からの補助金など、企業の関わりしろを作っていくのが良いと思います。

（委員）

地域の活動においてはやはり行政からの交付金が多いですが、なくしていく方向という意味ですか。

（事務局）

そうではなく、自主財源もあった方がより良いという考えです。

（委員）

受益者負担も考える必要があります。

（部会長）

お祭りも事業者のサポートがないと成り立たなくなってきましたね。

（委員）

一つ目に出てきた盆ダンスは自主財源ですか。

（事務局）

地域自治組織への補助金から謝礼金等の費用が出ています。お金として多額をかけているような事業ではありません。盆踊りの際に屋台がでて、その売り上げは自主財源になっています。

○時代に即したコミュニティ形成に対応する「行政機構」のあり方

（委員）

まさに伴走型を希望します。いろんな意味で気さくに相談できる窓口であってほしいなと思います。

（委員）

種々の審議会があるが、それぞれ共通の話題が多いにもかかわらず縦割りになっていることを感じます。子どもの年齢によって窓口が分けられることもあるので、最初のよろず相談を一つの窓口に行かないか、と感じています。

（委員）

例えば先ほど話にあがったアプリの開発者に対して、行政はどんなふうに伴走されるのか。

（事務局）

アプリの開発者がいることは地域の資源であり、つないでいく、掛け合わせていく支援ができるのではと思っています。そのため、行政は地域のことをよく知っていることが大事と思っています。

（委員）

よくわかった。

（部会長）

窓口を横串にするのは非常に難しいと思うが、検討してほしいです。

（事務局）

キーワードとして、たくさん挙がったと感じています。たくさんのキーワードを元に案を作っていきたいと思っています。追って、次回の日程調整をさせていただきます。

閉会